○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

それでは、5番、石田史行議員、どうぞ。

○5番（石田史行）

皆様、こんにちは。5番議員の石田史行でございます。

それでは、通告に従いまして1項目、質問させていただきます。町内ごみ集積所にかかわる諸課題を問うということでもあります。

町内の各ごみ集積所の形態は、地区によって、あるいは場所によって様々であるので、管理・運用体制にばらつきが出てくるのはある程度やむを得ませんが、できるだけ統一すべきであると私は考えております。より良いごみ集積所の管理・運用体制について、町は自治会任せにせず、もっと主体的に改善、提案すべきと考えております。そこで、下記の点について町長の見解を伺いたいと思います。

まず、1点目、町内の各ごみ集積所の管理・運用体制について、現状と課題は。2点目、可燃ごみの収集につきまして、祝日に重なっても定例の曜日に収集できるようにできないでしょうか。そして、3点目、いわゆる不燃物の立ち会いについて、現状と課題は。そして、最後に4点目、自治会に加入しない町民、とりわけ小規模集合住宅に住んでいる単身者によるごみにつきましては、別途の対応策が必要ではないでしょうか。

以上、御答弁をよろしくお願い申し上げます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、石田議員の御質問にお答えします。

最初に、開成町のごみ処理の沿革を簡単に説明をさせていただきます。

町でごみを収集、処理を開始するまでは、各家庭内でのごみの自家処理を行っておりました。昭和44年6月から町で可燃物の収集・運搬を開始、焼却処理を大井町へ委託し、その後、昭和46年2月から南足柄市へ委託先を変更しております。昭和47年4月、不燃物の収集・運搬を開始、処理を小田原市へ委託しております。昭和57年8月、足柄上地域では一番早く不燃物の分別収集を開始するとともに資源回収を実施し、ごみの分別を徹底しました。平成6年11月、山北町と西部清掃組合を設立し、焼却場を建設いたしました。名称を足柄西部環境センターとし、燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみの搬入を開始し、現在に至っております。

以上のように、開成町では町内に焼却施設を有していない状況にあるため、日頃から町の広報、エコひろば等での周知・啓発により、ごみの発生・抑制に取り組むとともに、資源ごみの分別に先進的に取り組んでまいりました。その結果、近隣地域では住民1日一人当たりのごみの排出量は一番少ない状況にあり、また資源化率は一番高い状況であります。

一方で、家庭ごみは、「ごみと資源の分け方、出し方」のカレンダーに準じて排出されておりますが、一部のごみの集積所でごみが散乱しているというところもあります。また、ごみと資源の分け方に記載されていないごみの不法投棄も散見されており、一部のごみ集積所の利用状況が好ましくないということも認識をしているところでもあります。このことから、ごみ集積所を利用する地域住民に協力を求めるとともに、ごみ収集業者によるごみ収集・運搬作業を兼ねたパトロールの回数を増やす必要があると考えております。

それでは、項目ごとに御質問にお答えをいたします。

一つ目の町内の各ごみ集積所の管理・運用体制について、現状と課題はについて、お答えをいたします。

ごみ集積所の箇所数の現状につきましては、平成30年4月現在、燃えるごみ置き場312カ所、燃えないごみ置き場72カ所、資源ごみ置き場45カ所があります。平成25年度と比較して、みなみ地区の設置を中心に燃えるごみ置き場46カ所増、燃えないごみ置き場2カ所増、資源ごみ置き場7カ所増となっております。ごみ集積所の新設・移設につきましては、地域の方々が集積所の場所を選定し、自治会から地域要望の申請をしていただき、申請場所に交通の支障等がなければ町で整備しております。管理につきましては、集積所を利用いただいている方々に管理をお願いしております。

また、町で整備したごみ集積所、開発等で町に移管された集積所につきましては、ごみの散乱防止としてカラスネットの配付をしております。各自治会へ交付している町からの交付金には地域内美化やごみ集積所管理のための費用が含まれており、交付金を利用して各地域の実情に応じた集積所の管理が柔軟になされている現状があります。

課題としましては、ごみ出しに関して、ごみを分別しないで排出したり違った種類のごみを排出したり、ごみ出しのルールを守らない方がおられます。また、道路上のごみ集積所では町外の方が車でごみを置いていくケースも見受けられ、ごみ集積所が適性に管理されていないところが数カ所、見受けられます。

次に、二つ目の可燃ごみの収集について、祝日に重なっても定例の曜日に収集できるようにできないかについて、お答えをいたします。

開成町の可燃ごみにつきましては、山北町にある足柄西部環境センターで処理をしております。足柄西部環境センターでは、山北町と開成町の収集ごみが処理をされております。山北町に建設するにあたり、当初に地元地域との取り決めの一つとして祝日、土・日曜日の搬入が規制されている現状があります。開成町の燃えるごみ等の処理は山北町を通過してごみを搬入させていただいており、地元地域の協力により現在の施設があることから、山北町の意向を尊重していく必要があります。

開成町としては、以前から曜日固定での可燃ごみの処理につきまして足柄西部清掃組合に要望をしているのが現状ではありますが、地域との問題もあり実現ができてお

りません。ただし、平成25年度から、山北町との合意の中で、ゴールデンウィークや年末などの休日が長期にわたる期間については、地元地域の方の御理解をいただき、試行的に、期間中に1日ではありますが、収集、処理をさせていただく日を設けております。引き続き、曜日固定での処理を足柄西部清掃組合に要望していきたいと考えております。

次に、三つ目のいわゆる不燃物の立ち会いについて、現状と課題はについて、お答えをいたします。

現状としましては、不燃物は各種不燃物ごとに処分方法が異なるため、排出時の対象項目ごとコンテナに分けて収集しております。不燃ごみの分別収集を開始した当初は、不燃物を正しく排出していただくよう地域の方々に立ち会いをお願いしてきた経緯があります。不燃物の分別が徹底されてきたこともあり、平成19年4月1日より、立ち会い当番を設けることにつきましては、町としては強制するものではなく、自治会の判断に委ねるよういたしました。

課題としましては、不燃物のスプレー缶の取り扱いにつきまして、スプレー缶は中身を出して金物として排出するようお願いしておりますが、中身を出さずに缶用のコンテナに排出される方が見受けられます。また、一部地区の排出曜日を変更したことにより、勘違いによって排出された方が多く見受けられます。立ち会い当番につきましては、各地域で検討され実施しているところ、していないところがありますが、現在、特に課題等は聞いておりません。

次に、四つ目の自治会に加入しない町民、とりわけ小規模集合住宅に住んでいる単身者によるごみについては、別途対応策が必要ではないかについて、お答えをいたします。

転入者への周知としまして、環境防災課窓口で各種ごみの排出方法や場所を個別に説明して伝えております。また、新築共同住宅の居住者に対する対応といたしまして、住民登録されない方もおられるため、管理会社から連絡をしていただき、居住者に対して環境防災課窓口で種類ごとのごみ排出場所、排出方法を確認してもらうよう依頼をしております。

いずれにしましても、町内のごみ集積所の適切な管理につきましては、町民の皆様の御協力が必要不可欠であり、町民の皆様の御協力により現在の先進的なごみ分別収集が成り立っております。今後も引き続き皆様の御協力のもと、ごみ出しのルールへの順守をお願いしていきたいと思っております。また、集合住宅対策を町と自治会で一緒に実施をしていきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

御答弁ありがとうございます。

まず町長に伺いたいのですけれども、ごみ集積所の管理・運用体制につきまして、課題としてごみ出しのルールを守らない方がいると。改めて言うまでもなく、これは開成町の問題だけではなくて、まさに全国の自治体が抱えている課題であります。開成駅に急行停車が決まりまして、これから、みなみ地区を中心に人口がますます増えていくと思いますけれども、残念ながら、人口増加に伴いまして、負の側面としてやはりごみ出しのルールを守らない方々が増える可能性が大いにあるというところで、ルールを守っていただくために何が必要かと。町長、お答えいただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

やはり一番大事なのは、地元自治会に加入していただくということが、まず第一なのかなと。そういう中で、もちろん守ってくれない人も当然いますけれども、まずは入っていない方と入っている方の違いも当然あると思います。先程、小規模住宅の話も出ましたけれども、なかなか、個別で中身を見てみますと、一戸建ての住宅の人は自治会に結構な割合で8割以上は加入していただいておりますけれども、アパート関係の人は低いということで平均が下がっているという。みなみ地区の自治会の中で、特にそういう数字が出ておりますので。

そういうルールをきちんと守っていただくためには、町が指導していく部分において、なかなか個別に伝わらない部分があるので、やはり自治会にまず入っていただいて、その中で皆さんと一緒にやっていくという仕組み、そういう成り立ちをこれからも力を入れていきたいと。その中の一つとして、また、出し方について、個別に必要があれば、それをプラスアルファしていくというふうに考えていきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

ありがとうございます。自治会に入っていただけであれば何とかルールの徹底というのはしやすいのですけれども、後程、また触れますけれども、自治会に加入しない町民の方々についてはなかなか難しい側面もあるということで、これは、また改めて伺いたいと思っておりますのでございます。

その上で、ちょっと順番が前後いたしますが、まず不燃物の立ち会いにつきまして再質問をさせていただきたいと思っております。特段、大きな課題はないという御答弁でありましたけれども、御案内だとは思いますが、平成19年の4月から、町として、この立ち会いに関しましては強制するものではなくて、実施するかどうかは各自治会の御判断に委ねているということで、自治会として引き続き立ち会いを実施しているところもあれば、立ち会いの負担から実施を取りやめている自治会もございます。

今、現状としまして、これは問題ないという話でしたけれども、各自治会によって対応にばらつきが、言い方があれなのですけれども、生じているわけでございますが、

町として、これは仕方ないというか、問題ないという、まず認識でよろしいでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

ばらつきがあるというより、スタートの時点においては各自治会でお願いをして立ち会いをしていただきましたけれども、そのルールが、ある意味、徹底し出したということで、途中から地区ごとによって、なかなかそれが負担だという声も聞かれましたので、その点は、できるところにはやっていただく、できないところには、そこは無理してやらないということで、徹底していないというか、ふぞろいということではないという認識であります。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

分かりました。確かに、最近、立ち会いを取りやめた副町長がお住まいの河原町の自治会につきましては、お聞きしましたところ、特に取りやめたことによって集積所が荒れたりするといった不都合は生じていないと伺っておりますし、あと、今年4月に新たに設立された、みなみの自治会でも、不燃物の立ち会いにつきましては当面は行わないという方針をとってございます。ただ、立ち会いを自治会として実施する、あるいは実施しないにかかわらず、不燃物の集積所の荒れ具合によっては個別の対応が必要ではないのか、別途の対応が必要ではないかと思いますが、町の見解をお願いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（山口健一）

それでは、議員の御質問にお答えをさせていただきます。

そちらの不燃物の置き場について、荒れているところには別途対応が必要ではないかという御質問でございますけれども、そこにつきましては、環境美化推進委員という方が各地域でおられまして、環境美化推進委員に、どういうところがちゃんとしっかり出されていないかということを確認させていただきまして、そこにつきましては、町の職員が直接その現場を確認いたしまして、どうしてもちゃんと守られていられない現状がありましたら、そこに張り紙をして、しっかり出していただくような指導を個別にさせていただきたいと思っております。それにつきましては、その美化推進委員と町の職員と協力をしながら、どういった対応がとれるかというのをしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

それは町の自治会の環境美化推進委員の方々を中心にやっていただくということで、そこに職員が協力して立ち会いを一定期間、行うということも必要なのかなと思うのですけれども、そういうことは可能でしょうか。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（山口健一）

それでは、お答えいたします。

そこにつきましては、かなり各地域におきまして全てそういった対応をとるということは難しいと、こちらでは考えております。まず、先程、町長も答弁いたしましたように、各自治会に自治会の交付金というものを活動費として交付をしておりますので、その中でシルバーとか、そういった方々を独自に雇用されて対応していただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

今、課長のお話の中で、自治会の交付金の範囲で個別にシルバーに委託するのは構わないよという話なのですけれども、そんなにたくさんのお金をいただいているわけではないので、なかなか限界があるのかなと私は思うのですけれども。

もう一つ、これは町民からいただいている御意見として申し述べたいのですけれども、加えて、実は、現在、自治会として立ち会いを実施しているとしても、いわゆる働いている若い世代、サラリーマン世代の組長が、内心はとても負担に感じていると。だけど、自治会として実施することになっているために、声を、ある意味、上げられずに、渋々、我慢して立ち会いをやっているというお声もいただいております。自治会内では事実上、強制となるわけですから、なかなか負担になるのかなと。

そういった若い世代の組長の負担を和らげるために、ちょっとシルバーの話が出ましたけれども、県内の多くの自治体では、もう既に不燃物の立ち会いをシルバー等、外部に委託しております。我が町としても、こういったものの導入を検討したらいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（鳥海仁史）

今、石田議員から、ほかの自治体の事例等も交えての御質問でございますけれども、開成町、先程、町長答弁の冒頭でもございましたように、分別収集、これを立ち上げてから大変長く時間が経っていると、経過が経っているというところでございます。

こちらの制度を導入当初につきましては、やはり町と自治会とが協働しまして現在の形をつくり出してきているというところがございます。

みなみ自治会が今年の4月に立ち上がったところで、まだ自治会としての対応が日が浅いというところ、これは承知しているところがございますが、ほかの自治会と同じように、今後も町で予算措置をするということではなくて、うまく、先程、担当課長の答弁もございましたが、美化推進委員ですとか、あるいは町の職員等と話し合い、あるいは状況の確認を持ちまして、どうしても改善が見られないというところにつきましては、また改めて分別収集を開始した当初のときの状況等も確認しながら対応を考えてまいりたいと思うところがございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

私の言い方がちょっと不足していたかもしれないのですが、例えば、不燃物の今の全箇所シルバーを張りつければとなると大変なお金がかかりますから、それは現実的に難しいと思うのです。ただ、私は、朝の7時から9時まで、これは基本的に張りつく必要もないのではないかなという気がして、シルバーに、例えば、張りつくのではなくて巡回していただくような形でやれば、少ない予算でそういったところも可能なのではないかなと思うのですけれども、そういった検討はお願いできないでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（山口健一）

それでは、お答えをさせていただきます。

平成27年度に環境美化推進協議会の中で、立ち会い当番につきましては各地域の方からいろいろな御意見をいただいております。地域によっては、北部では、やはり高齢化が進んでいてなかなか立ち会いができないという状況で、やめたいという場所もございましたけれども、その地域につきましては、地域の中で話し合いを持った結果、地域のコミュニケーションはそういうところでとれるので、今までどおりやっていくのだというところもございます。

また、別の地域では、先程、議員おっしゃられましたけれども、有給休暇とかフレックス休暇が、立ち会いをやることによって、それが目的として逆に休暇がとりやすくなったという御意見もあったという状況で、それぞれの地域によって当番につきましては考え方が違っているという現状がございます。ですから、環境美化推進協議会の中で、それぞれどういった対応をとるのかというのを、また、さらに検討させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

具体的な検討をしていただくという答弁をいただけないのでちょっと残念ですがけれども、私は、とにかく意識しているのは、サラリーマン世代の方々にそれをやっていただくというのは、やはり、これは現実的にも、もはや難しいと。要するに、自治会、そんなことをやらされるのだったら出ていくよという、そういうことになってしまっただけは私は元も子もないと思うわけですから、やはり、これは。環境美化推進協議会でも、ぜひ議題として取り上げていただいて良いやり方を考えていただきたいなというところで、この点につきましては質問を終わらせていただきたいと思います。

次に、4点目の自治会に加入しない町民の方、とりわけ小規模集合住宅に住んでいる単身者によるごみについて、別途の対応策が必要ではないかという私の投げかけに対しまして、最後のところで集合住宅対策を町と自治会で一緒に実施していきたいという御答弁をいただきました。具体的な対策というものが示されていないのですけれども、何か腹案があってこのように御答弁されたのか、それとも、まだこれからというところなのか、その点、御説明をいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（山口健一）

それでは、御質問にお答えをさせていただきます。

対応策といたしましては、以前、結構前になるのですけれども、自治会長が個別にそういう場所を回って、ごみ出しの説明をしていただいた経緯もございまして、そういった形では大変御苦勞をされるということがありますので、そちらにつきましては、町と自治会と同じような形で、町で個別住宅用のごみ出しのルールをつくったもの、A3ぐらいにまとめたものをつくって、それを持って自治会に加入をしていない集合住宅のところに自治会と町の職員と一緒に個別にチラシを配付していくという、そういった対策を考えております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

そういった対策も、やらないよりはましだと思うのですけれども、私の問題意識としては、小規模集合住宅に住んでいる単身者の世帯というのは、やはり出入りも激しいですし、自治会に結局、入ってといても、それは強制はできませんから、そのところは、ある意味、こういう言い方もあれですけれども、割り切りが必要なのかなというところがありまして。

集合住宅対策につきまして、もっと具体的に御提案を申しあげたいのは、例えば、20世帯以上であれば、当然、町の計画で集合住宅用のごみ置き場が置かれていると

ころは構わないのです。そういうのがないところの対策が、私は別途必要なのではないかなというところでございまして。例えば、みなみ地区に限定していえば、割とごみステーションというのは幅がありますから、そこのところに、そこの自治会に入っていない小規模集合住宅の方々用に、くずかごですか、みたいなものを別途、置いてみるとか。もちろん、それをすぐやれということではなくて、どうしても荒れるところがありますから、そこに例えばモデル的に置いてみるということは検討はしていただけないでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（山口健一）

議員の今の質問につきましては、町といたしましては、そういう形で一般の方と集合住宅の方と違った形のものを置いてしまいますと、結局的には、どちらに出すかというのも分からないわけですから、そういったものを個別に町として設置をするということは考えておりません。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

もう時間もないので、これについてはこの辺でとどめさせていただきます。また別の機会に取り上げさせていただきたいと思います。

最後に、可燃ごみの収集の曜日固定につきまして、先程の答弁によりますと、曜日の固定は現状としてかなり難しいのかなという印象を受ける答弁をいただきまして。山北町に平成6年に焼却場を建設する際に、地元との取り決めの一つとして祝日、土・日の搬入が規制されているということではありますが、この取り決めについて、見直しはもう不可能なのでしょうか、御答弁をお願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。残り時間は1分ですので、簡潔をお願いします。

○町長（府川裕一）

見直しが不可能というより、我々は焼却の施設を持っていないので山北町にお願いをして焼却をやってもらっている、その施設をつくる時に地域住民の方との約束があったと。それは、我々はやはりお願いする立場でありますので、対等をお願いというか、言うことではない。持たない町にとっては、ごみをまず減らすというのが。先程、近隣では一番、ごみの消費が少ない。そのような形でずっとやってきているわけであって、これからも山北町にそういうお世話になるわけです。

お願いは、きちんとしていきます。していきますけれども、やはり立場上、そういうことの。我々も、きちんと、できることをやった上でお願いするというのがすごく大事になってくると思うので、そういう点をぜひ御理解を。先程の答弁の中で変遷を

言いましたけれども、こういう町の流れの中でごみはやっておりますので、石田議員にも、ぜひ、その辺は御理解をいただきたいなと思います。

○議長（茅沼隆文）

時間が来ましたので、石田議員、最後、簡潔に。

○5番（石田史行）

すみません。近隣のお話が出ましたけれども、既に小田原市とか、いわゆる東部清掃組合では曜日の固定は実施済みでありますので、住民サービスのあり方として近隣より遅れをとっていると言わざるを得ません。山北町の意向を尊重するのは当然でありますし、お願いする立場ではありますが、何とぞ、これは住民の強い要望でありますので、ぜひとも早期実現に全力をお願いして私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

これで石田議員の一般質問を終了いたします。